周 易 傳 義 補 疑

三世成美化二七十八八大 はあいろとかりのなかでき や見りはまるできる 男で女のみ男気下于女略選 文四四日五日在八月月多傳義補疑卷之五 我不会成今公司一下五日 禁死是主法 五五十二成亨利貞取女吉 古み寒しざ 化二六股子音 男大生一体は大 苦あならる あるえのでは 古作党的政士的工作及例子 多者と見る地方れなかる 東州大学はある成のない 要いた西以之女子大山東 天臣~是一百上下似为成约 するしてれるかな成り 立人がいいてきかなナスも || | 民下天地万面之群大路人偏人的好人的女人的人情的人情的一样全四方的一人 感莫如男女而少復甚馬故成有亨之理也利貞相感 傳成感也不曰感者成有皆義男女交相感也物之相 下一氣感應相與止而說男下女之義以此義取女則 效相感还不以正也取女吉以卦才言也卦有桑上刚 之道利在於正也不以正則入於惡矣如夫婦之以煜 -後學丹陽姜 寳篆註—門人 一晋江 梁山古之賢

日本是東田俊多正正五日 は城東京主の映成でお宿 古本なのるあれば するまればんかとはて をするなけばれし 用而め北大物を多らなな 程度を必ずな人かのないな 朝は春山上があるからめて たまないれから天成る元を 女が名はてはら成直した 本ではいいかった 不然不力力也以為是四分 得正而吉也日本義成交感也名孫在上民刚在下而 皆也无心之感也无心於感者无所不感也感則必通 然不以真則失其事而所為皆凶矣の胡氏炳文曰成 其卦為成其占亨而利貞取女則吉盖感有公通之理 男下於名之少女男先於女得男女之正婚姻之時故 交相感應又艮止則感之事允說則應之至又艮以少 不可取矣〇誠於乾坤陰陽之辨成恒陰陽之交不辨 當如此女以貞靜為正男不下女而女從之非貞女也 分不嚴不交情不通 而利在於貞此言感之道當如此取女吉專言取女者

古ならていこと かりてあるはしいろべる があめ 五食を取しり 列名きまでえ 路中かる 明まな人工の大の歌うる はる憂 干洗作果 女子を思るしふちま 冬怕七百代以城之之一在一家日底感也成十二天的两国的成者以自己或《安使死这个是我们在安的人 古的存れし他忠正和名成 常なの男人成果の身に書き 茶上而剛下二氣感應以相與止而說男下女是以亨利本義釋計名義以此人以及了其一次以及人物人也的此代 本義以卦體卦德卦象釋卦辞〇丘氏行可曰桑上上 情從欲之失此釋利貞義男下女以二象言謂以艮之 說以工使言人心之說動易失正唯止而能說則无狗 也六本居三上與乾交而為光也剛下三也九本居上 少男下於名之少女也凡婚姻之道无女先男者必女 下與坤交而為艮也二氣感應以相與稱咸亨義止而

東是 100·住在了人情可見矣天地萬物以化生相感應聖人天下以和平相 我我是通行是一天下和平近去我的一个也觀其所感而天地萬物之 他家の後大下し方後に 石室をからててしも子 かられてやるあしたるて 人一天人とんれなな大成五三 なるではるなかしめる 我是人的政心出版工、 能中の ななでかだよなるようで がりなるみぞく 第4年人かはチェンを はきまるのなうないの大 たでたらてかし 及るいませ 感性はかわってかてやせてやで人も受人やいかなうこしかかし呼吸を工事とし 本義極言感通之理学年了他也 好限到老上我那名的便我上去我的一个 貞靜男先下之則為得男女之正此釋取女古義 虚則能受實則不能入矣虚中者无我也中无私主則一百や 傳乃子閱山澤通氣之象而虚其中以受於人夫人中一品為學 无感不通也〇本義山下有澤以虚而通也〇誠蘇山 与東股子馬

かけるちょう 今天 松大九七世の東京 以為人物或此名其无 全国一次中文工作 老女ののは大好かを玉 私のよりであるたれてかれ A型以外的大百里初六成其拇象日成其拇志在外四也都不是其外中以及以外 失くるぬみのはなるかなる 五极化此的极联元份室 一直的後後了大して有日在 明る中なまる中央方も交 但此此无我太强而之处 考べしるべ件子公志有 西来界十八方 孙 安说 するからかるまるなる まれでからな子山八 如噬嗑之象則省乎顧中有物如成之象則为手人也 本義拇足大指也成以人身取象感於最下成拇之象 皆捍之而不受矣故山以虚則能受澤心以虚則能受 受澤山之虚心受人君子之虚虚故感感故應〇丘氏 以私意實之則先入者為主而感應之機室雖有至者 六爻皆宜靜而不宜動也○誠蘇易者象也來者肖也 也感之尚淺欲進未能故不言吉凶此卦雖主於感然 行可曰人之一心其寂然不動感而逐通者虚故也首 主分及你已 的宝年了上班首先付的孩及以已受给孩子人不准者成任意以拢于人

大二成其腓凶居古 成の長まやしてお子朋外 羽军并四武八二四日八二 在好点法在風色軍 ゆとはなずるゆうかもう 子不動が日本以外の方 るからからからかのかり 布件をかる行る水子名の此 がはないできている。 他能居其所故其占動凶而靜吉也〇王氏輔嗣云成 本義腓足肚也欲行則先自動躁妄而不能固守者也 初六欲行者也而初六止而不行是心行而足止也 也九四說之初初六止之初初與四應者地九四之感 初六拇也成而感之者誰也九四也九四之體一身之 ·身初與二省乎足三與四與五省平身上則省乎口 道轉進離拇升腓腓體動躁者也感物以躁凶之道也 二當其處又以除柔不能固守故取其象然有中正之 心也拇也腓也股也胸也輔類舌也聽乎心而動靜者

アラーコニコモルトリント 象日難凶居吉順不害也去版四二九しれ去矣がお花出一位は局中を成立しなるのなるなる。我日難凶居吉順不害也矣る他人我也是なる正是不多了五年春し けぞれられているるなろう下也を描ればたしこれる人でおかいけまれしまましたあからした やもであるなかなはこ 花しなから取るにえがむ 这以底于佑 多人五千六 四季上七年名至二九三成其股歌其隨循云主於随往各 田朴る三科美の安しる 石神四次以版 什是 見的作 英東的正俊立ててるは一月のない見用としてこと かやすら、はつ年のでも、別 は半月 うぶんけんごせなる 旧程四上四次川上工厅家 家事が代をにっかざらな 於於守女祖王昭也用加王 松近海のようにうなる人 うるかで 東日成其股前二爻不處此之亦不處也志在随人所執志也於為其及前二文不處此之亦不處也也有其是人所執 故其象占如此〇劉氏牧云志在随人執其随僕厮之 本義股随足而動不能自專者也執者主當持守之意 下二爻皆欲動者也三亦不能自守而随之往則各矣 居則乗陽為順順故不害 由躁故凶居則吉矣處不乗剛故可以居而獲吉

李秀冷之後, 九四若貞則吉而悔亡者憧憧往來則但朋從爾思而見 でなる で生のうるの人ならる公 学信收五起口名作本人 なるかかいでんきゅれ 五份分析品的的學文 をまるをあれったがある 後去の大小のよりるちゅうこ 一角七季で一月七 女明心 里でなるえんさ 見る方もる見なる人 虚 中山四天祭後でよう上 التكميم به عن سالار، و يا 一本義言亦者因前二爻皆欲動而云也二爻陰躁其動 他宜九三陽到居止之極宜靜而動可各也甚也の雲 居除為失其正而不能固故因占設戒以為能正而固 本義九四居股之上海之下又當三陽之中心之象成 乎污下者也 峰胡氏炳文曰彼不處而我亦不處不能自立而日究 这天下則但朋類從其所思不復能及遠矣 O 朱子云 之主也心之感物當正而固乃得其理今九四乃以陽 則吉而悔亡若憧憧往來不能正固而累於私感不能

んできせいまれられて なる世界不ほことを 度老品我能在名以 しかってもうみんかに 茶品用作品各大包子艺 きるから出いせれること け、とほとれて成た 化村本市送来了巴尔口" 甘古 作品日不以下地 竹 水の使きていむはみ 人を西京なめかま村佐後 力の五雪、軽しはもでる なりはまべてはる心は マガを里ルの · 原表係表格數次主表 所客也懂懂往來未光大也私則扶多了的名式落於文分大 象回與古悔亡未感害也和未感故未有害言未為私感 九五成與降元悔 來也无迎於往也无將既應之後猶未應之初也靜亦 本義言不正而感則有害也 是翁云憧憧動心之貌真則靜靜則虚虚則一一則於 憧憧是一心方欲感他!心又欲他來應往來方往時 定動亦定寂也未事不感感也未當不知何懂懂之有 一身之心不言心而言思責其廢心而任思也〇齊氏 又要來方來時又要往也心誠齊九四在一卦之體如 *

主元なんない 天生がはか おかえるかけんとことない が実みさればかるなる! 家日成其脚志木也此主なるのなっていまりの生気のは気をいるよう 上六成其輔類古及高時成至西北路至了三世人之里俊思的不敢之 本義梅が肉在心上而相肯不能感物而无私係九五 適當其處故取其象而戒占者以能如是則雖不能感 本義志宋謂不能感物〇不能感物其志亦末矣 故股與輔頓皆在兩旁而者居中有至理保馬 物而亦可以光悔也の新安程氏直方曰初與四應故 本義輔頻舌皆所以言者而在身之上上六以陰居說 拇與心皆在前二與五應故肺與海皆在後三與上應 之終處成之極感人以言而无其實又名爲口舌敌其

一切なるは、風井へはする山本 いきかいるももろいけず 東京のなった大松の生 神を取ったかられかれ 伊兵成をかっている 名主義が一主要は十大 まるの女心はまれば太 そかれな反正なせて 家日成其輔賴古滕口說也是他的女子名不成山口的各分上子中天 以成感感之道其難哉大傳曰夫易何思也云云必如 義者然先心者固先所感而有心者憧憧往來亦不能 指不能盡乎感之道惟四居心位為感之生似知感之 是而後可以言成感之道也 上主象上體下主象下體拇腓股随體而動應感者也 胸不能思无感者也輔類面以言為說不足以感者也 本義滕騰通用〇童溪王氏宗傳曰以心思感人所感 象如此山谷可知○輔口輔也 已來况騰口說以感手於是感道表矣〇丘氏行可日

がほれるできっていま ろんしきしんせいから のでしてとい人できたち 千世美地でましてる 東是マかないない見込 中央正しな云行天大成 をいていかりとうとあ 田がるとするのれなべる 何至不是不是 恒守无给利其利有攸在此人或在方不正常之者也有其 这一本品作为 おななえるとないでは五五 不在作る不在かち 一行ラスが在でなりすい 東京教育のでは、一二十二次に上、から元をおりませんとはなってるからって、北京するいらはる人里で教育のでは、一川、野、丁、教中はの任かなるといかして、おはないものもかられた 正五大生了五馬石田之 下型好学美 大有者无本作思白教育 不巴馬者亦恒之利者也本義以為利於守真乃為得 本義恒常人也為計震副在上與桑在下震雷異風· 皆理之常故為恒其占為能义於其道則亨而无咎然 由此知恒之貞而不易者恒之利者也恒之有攸往而 物相與異順震動為異而動二體六爻陰陽相應四者 所常义之道而利有所往利於守貞利字似未為分時 ① 徐氏我曰利自不易之恒也利有攸往不已之恒也 又此利於守貞則乃為得所常义之道而利有所往也

いかうてきなかをな 会場出き、みないるな するだえ きせかる皮を 超上就 在東京至其作在河 日本で日本の主首は河 一日の日本の日本の中ではける場所見りしたってるかかからととははははなる本古美の社社を 常 日の日本作の平高四川作品が最大的に云花をでいたなるではなる 中不是有大多品的一些而動男動於外女順於内人理之常刚在智順文庫也不是為完成是人 なるないいだったいとうかの 西代女者できし地主 不好さるのでなするこ がて、本おけんして「木本」 AW - 801 8 9 ACCES 47 中等等發在一家日恒人也剛上而桑下 剛柔之常雷風相與二氣之常 数なんべんだけん 南方伊多功廷の五本 恒亨无谷利貞义於其道也天地之道恒兵而不已也 不正則义非其道矣天地之道所以長义亦以正而己 本義恒固能亨且无咎矣然必利於正乃為义於其道 下長男此夫婦之偕老男下女則女随女亦男則男真 矣口就齊成以少男下少女此男女之新昏恒以長女 男尊女甲尊甲定位然後常分正矣正則可名父則可 本義以卦體卦象卦德釋卦名義教指於成以我有多次人 The same of the sa

日本の本が、九十二次一次 以神秘大治生世生又之 即各居之前在为不成本 かいからなれた古ん 明なしたといいかにまうます 万年は七かるの有代 なだらか出社が改る なるとる知れを以外 好きなでしれまるであっ かてきるなべるという グラをとして す人ない からなったであ 利有攸往終則有始也 - 理然必靜為主也○胡氏炳文曰本義釋乾彖曰始即 不己之恒亦恒之利者也 本義久於其道終也利有攸往始也動静相生循環之 為是 恒久而不已卦解所謂利有攸往終則有始也即所謂 元也終則貞也不終則无始不貞則无以為元乾言天 道之終始此言人於道其始終當如此〇按天地之道 恒恒之利者也天地之道恒久而不已也带在下文說 恒故曰利貞〇按正則可久久乃為恒此所謂不易也

在中工代方面とはいかり 本書を作いまったといす 百十二日等金四日月得大而能义照四時變化而能义成聖人义於其道 き他格立なした 此下の本行の不力大力の間にはは、こうとの、不力なないとう、 東日雷風恒君子以立不易方不多多为方法会之品之人 初六沒恒真凶无攸利 傳君子觀雷風相與成恒之象以常久其德自立於大 炳文曰雷風雖變而有不變者存體雷風之變者為然 中常久之道不發易其常所也〇誠齊終始變化者恒 所以久而不窮立不易方者恒所以久而不變の胡氏 之不變者善體雷風者也 大天英日秋不好在在 任以下事之司

是世不不造的古之前 在城市为本内日本 學,臣三批公內存 見憶しるいれない 出ばハポ 市は七字を有で元句 お人なけるのかりま 品が代人の比からる 書が表記 るの後代三 子がなる。おりるかし とおえる大気のな太 少五名的人人名英·公子 月人人 、傳物居下而四為正應柔暗之人能守常而不能度勢 初之意異子常矣初之柔暗不能度勢又以陰居異下 義初與四為正應理之常也然初居下而在初未可以 者如此則雖貞亦凶而无所利矣 求望於上之深堅固守此為之道也沈常如此无所往 應初之志異子常矣而初及求整然深原常的不度勢 為異之主其性務入故深以常理求之後恒之象也占 深有所求四震體而陽性上而不下又為二三所隔應 而利矣世之責望故素而致悔谷者皆沒恒者也句本 四震體而陽性以剛居高志上而不下又為二三所隔

いるうおちからし一合かん 九一行古民外位七十三元 でぬか かかれましゅう なるとせんだのいかった はなるとはなるのました一悔亡象日九二悔亡能义於中也あるとれるながあると かあがしをマスポ 存内東は一ついなの大 有政が考える代め年の 竹作之母女佐任かんだ 李文人大大日子山田丁 學里有我對是成分以及 在世外代をを必必れたる が海本るへ 南田野本行及門五太 九三不恆其德或稱之造真各 東日沒恒之 山始求深也 林我在雖得在然過刷不中志從於且不能及於其形 中之徳而應於中德之勝也足以七其悔矣〇本義以 而應於五五復居中以中而應中其處與動皆得中也 陽居陰本當有悔以其义中故得七也自由我為中心也 傳光陽文居除位處非其常本當有悔而九二以中德 是能恒义於中也能恒义於中則不失正矣九二以剛 始求不當深而深此所以此

美ななられるのできるが投 格化分子比较於西土 先於会の関人の見心作 西加工是可以物典 存せしたユアものなるのは 象日不恒其德无所容也 九四田无禽象日义非其位安得禽也北非者大大臣己为王改臣 以承奉也言人皆得奉而進之不知其所自來也貞各者 三以其剛介於二剛之間進退皆无所容 故為不恒其徒或承也差之象或者不知其何人之解 承之位貞而他不恒故曰貞各 為不恒其德之象不恒之人无所用耻人亦其不以耿 體其究為躁卦而當雷風之變志從於上不能自守故 處得其位謂宜固執而不變也然以其過剛不中又異 正而不恒為可羞各申我占者之解心禁良佩曰九三 三克列巴丁州州大四里一部等于

聖者是義一至一象白婦外與古從世而於此夫子制義從婦凶也是 一名七 強別市の支や主便な不 四八川 か日、元田元代 住今北帝山、加中山西之 为五子初传言国的大小一到一个一个一年上一年上了一天大百十九日日本人一日本中的大小小人的一大 英多分分成形 表光三十二 やや ある民意をあっま他和 今天中主代北江西見住 おいまる人代所代表 ニャカロル・すから 中城心を作中かる帝か 李は大大さる大三不多 月重奏の九三八四月刊 所治田常也人が不成の故し此が三種可名笑のようる二十十日中不失知道がするかう一大をかし状 本義以孫中而應剛中常久不易正而固矣然乃婦人 **无獲也○胡氏炳文曰師六五桑中而所應者剛剛實** 本義以陽居陰义非其位故為此象占者田无所復而 老道非夫子之宜也故其象占如此〇胡氏炳文曰六 老子 故曰有禽恒四剛居不中而所應者柔柔虚故田无禽 五中矣然剛而中可恒也柔而中婦人之常非夫子之 凡事亦不得其所求也〇王氏輔嗣曰恒於非位雖勞 11方支化了 一本の大を見る 大大大人

火えか 以大天罗、新秋八日初作 全己是情格但る主人 大學夏老京多一 而求振亦非也〇丘氏行可曰恒中道也中則能但不 并原的哲文的不正面主 要是这些人不敢信任要我 マ大王三王をも中八十 を子之上のおで成う! 黄家後の如の造役成を するいかの英なかれる 大海北空田四元友屋 の何で山田東 有公共本一科科报区型 等我是我不是我提到我目根恒在上大无物也是被我多清人多报 本義狼者動之速也上六居恒之極處震之終恒極則 中則不恒矣初在下體之下四在上體之下皆未及乎 皆也過半恒者故好變而不知常惟二五得上下體之 淡恒也在上以動為常振恒也在下而求沒非也在上 不常應終則過動又除乘不能固守居上非其所安故 有振恒之象而其古則凶也〇楊氏曰在下以入為常 恒者故泥常而不知樂三在下體之上上在上體之上 中似知恒之義者而五位剛爻柔以柔中為恒故不能

也在了自然生了一般一年一天一人一大人一人的人人的人人的人工工作设在一个大人的人工工作设在一个大 はぬうれだるしないれる人 見風和水正學人行之份 すに在死るなれた ある初人な風をせてして 佐六円よるまままかっても 官武工分別城以移城下松草 李安斯光的小女儿写家 多ななる山村小人也大 をおるたるをいなり、こ The state of the s 可以有為但上陰浸長於下則其勢不可以不逃故其 可以其浸長之故而遂侵迫乎陽也小謂除柔小人也 此卦之占與否之初二兩文相類〇逐亨為君子言也 占為君子能逃則身雖退而道亨小人則利於守正不 本義逃退避也為卦二陰浸長陽當退避故為逃六月 守常之義恒之道豈易言哉 制義二位柔文剛以剛中為恒而居位不當亦不能盡 之卦也陽雖當逃然九五當位而下有六二之應若猶

天下 一天 與時行不然便是與時背 は日では挟むてき方へ ひかは見るのなかえなる 松本道文章张 世母子長間見な小八日川町 事であれるのとなりで 此はなる円を大切とけてき、 なままかい人物ではまる であっとりをかんたけら ではする 日本でえたり かんきなるなるかまるので 花牧がBPを好い安本の で本たるるなない 1860风时的我花木 花代以後作者のようちの 好なのたので 小利貞浸而長也 唐·日代末日宝 日末 本義以九五一爻釋亨義 亦有所不利也○君呼以逐為亨小人以静正為利 告君子使逐去不去則見害於小人矣小利真為小人 本義以下二陰釋小利貞○中溪張氏清子曰臨之麦 剛沒而長遯之录不曰柔浸而長而止曰浸而長者盖 言也勉小人以正小人而不守正則凌迫乎君子雖也 剛之長可言也柔之長不可言也

おうまんなること 必收にちきつきず 子し 李山山日之東 山山木 至云四七名美山那之時義大矣哉 杨英 著心意子的父子者 ラガマンのの里しげる大 有風し四天的気けれの 他計一好品品及的富品 あちれて ててれかとう - 陽循麻於外其勢循河以小有所正而未至於大壞也 · 日子本教历徒,主奉 本義陰方浸長處之為難故其時義為尤大也〇誠森 應其時循可與有行者二陰雖長於內然漸而未驟四 吾讀易至逐而嘆曰逐其見聖人之心乎聖心馬在曰 於進而通於退雖然聖人之退聖人之通天下之窮也 聖人豈悻悻然决於退哉五以剛陽當君位而與二為 在天下而不在一身故曰渺守渺而亨也逐而亨者窮 孔子去曾而行之遲孟子三宿出畫而循曰速聖人之 心在天下如此故曰逃之時義大矣言其進退之時去

かなからいないがかかい

意名為是一致一初六班尾屬勿用有攸往言但當危行言选不可有所住 秋田枝のてってるず山をれる! 無を於上学でれた正 だるいれてなといるるのかちか 等之 安學之子 照角隔色而自於脏威嚴也遠外人取艮止象不惡而嚴 おおいしたのだろうななない 上五度于上五有就社艺 本等中子語名之。

家由天下有山鄉君子及遠小人不惡而嚴环恐而嚴無 明本で 社体を表示のは意 自然はなない。 取乾剛象 本義天體无窮山高有限逐之象也嚴者君子自守之 那之象也〇就察其義為陽避陰君子避小人故日逐 常而小人自不能近〇山勢上逼天性高遠不受其過 一聖人之於天下亦像俸於萬中也 就立義甚大而未可樂也故小人之於一身後俸於萬 避者退而避也

本はないないとうとしないま 田がみみ 大州等工人では次文ラム がないなるろう 三十五年の一古七七十五十二 なるとうれるとういうし ちのです老はなるなかん かれるだとかとなるとはな てなのいおかないなってる 老子状和着七三本九 一九一大程本 かかんなれた 世上九則而知終則最先逐九五剛也則又逐九四剛 耳〇談於進處後則遠利明退處先則遠害發處避之 象危之道也占者不可以有所往但晦處靜俟可免於 也則又逐故上為肥遜五為那遇四為好逐皆喜其不 處微下隱亂世而不去者多矣〇本義縣而在後尾之 性既有危不若不住而晦蔵可免於災處微故也古人 尾尾在後之物也逐而在後不及者也是以危也初以 柔處微既已後矣不可往也往則危矣微者易於晦蔵 傳他卦以下為初逃者往逃也在前者先進故初乃為

第四十五年中帝皇帝一八三教之用黄牛之草莫之膝說服衆日教用黄牛固志 独を追摘を打在実を あしい人也当人物なるるのま 声をかけるとれてまれる。他 松於作意思我四田左日子之 都被四風以前因表出名的 我上月本一社四十五人 在五年一分所等天海之 生のでかけでする 本を一色 事故自己上中神子心的王 也的本方文之子れし住的故心因文中一年今れる方不遇也如是如子人女一人故民关 明人の他でおれる 公子 東白逐尾之屬不住何災也 言若无所作用則亦何失之 1000年 九三條避有疾願畜臣妾古良為閣寺臣妾之象 相 趣尾故危属而災 勝言恐未見 當如是○莫之勝股事二之從五者固也傳以為不可 太我以中順自守人莫能解必逐之志也占者固守亦 也放大来而不能决止而不能行文居逐也最後故為

最后於此題至《家白係班之隔有疾憊田也解属守高臣妾吉不可大事 文文と見りの日本を書き **的出版主点日人大** 大いはゆめばする用があれ いろとして 国のしたとおんど生まし 多名的有情况是不知识 かるとすめからのかた なのかかんろうできまれのは 大くとんろうのんとるも 世代の事正品を云かれる 病やりし無方ともしえ 第一位山西省 かきを乗り 九四好避君子吉小人否象日君子好逃小人否也 // I man and channels ... 本義亦應初六而乾體剛健有所好而能絕也以歷色 也の馬燕百山意說似更有理過過少以上為聖人等四共 主之畜臣安桑而服之使二陰止於內而不往及吉道 賢而可畜耳故其占如此〇馮氏奇之曰无三為正陰 本義下比二陰當避而有所係之象有疾而危之道也 所物緊而不得脫將為除柔所薄而元氣危矣能如人 然以畜臣妾則古盖君子之於小人惟臣妾則不必其

以第五日·中世上九肥腿无不利 おとしまればかるかなる **ニグマがオマガモるん本手** 我不不告友為出此是其 京れず安三五なし上飲 アニティーは主っはこ 里古人名意以花世史人 作品品在 聖事主五 式五八五 ·王忠壮·及受了相な於 おけれる町本のなっちゅうちょ 古声大手へ来ないた 和张台及证值是村全地一下 《在三十八月》 分れいりて 九五嘉遯貞古象日嘉遯貞吉以正志也公在太大 傳逐非人君之事故不主君位言然人君之所避遠乃 傅肥者充大寬裕之意逃者惟飄然遠逝无所繁游之 无好也不事於外正我之志而已此其所以為嘉也 氏雍曰以正志者九五嘉逃随而不流无係也无執也 吉而小人否也 順而中正 逃之嘉美者也占者如是而正則吉矣〇郭 避也亦在中正而己〇本義剛陽中正下應六二亦悉 象也唯自遠之君子能之而小人不能故占者君子則

象曰肥遯无不利无所疑也 三有所係則疾上无所疑故 華為係遯上三爻乾也主於行故為好避為嘉逐為肥 為肥矣其逃如此何所不利〇本義以剛陽居卦好下 此肥者寬裕自得之意〇四之好不如五之嘉五之嘉 无係應去然最遠逃之遠而處之裕者也故其象占如 為善上乾體到斷在卦之外矣又下无所緊是逃之遠 遯 不如上之肥上與二陰无應无係故肥肥者疾憊之反 而无累可謂寬綽有餘裕也逐者窮困之時也善處則 也〇項氏安世曰下三爻艮也主於止故為不往為執

学至大路器人大壮利貞大指四陽言大壮利貞大者利於正也 大海西水香石区众不其名 おかいのの不然の気を むおからしたころからな かんかられのなや 明教芸不平艺本では了 大世界は後の天だ子 子は子がおおおでかま 田太 我しちないだっなと 世紀七年十十年で今天 限する英原し出版スポラ 吸力以自己可是人名式在 おんだらい そで表の人 10一百年五次大北 打四 司法本の現所不可之を主 一周易傳表治经一个五卷 | 录曰大壮大者壮也剛以動故壮 德言則乾剛震動所以社也 本義大謂陽也四陽盛長故為大壮二月之卦也陽剛 本義釋卦名義以卦體言則陽長過中大者壮也以卦 則君子不能勝小人故大壮言大者利於貞 則小人得以陵君子故趣言小者利於貞陽之進不正 則占者吉亨不假言但利在正固而己〇陰之進不正

表出的文文公子之人人生和真大者正也正大而天地之情可見矣る为智之之人之世等为 内武さしまるたるでんこ たられがほしてかれてある 位かいわかいての流へを大 注意を見るる白なで小人な 色代かかのあかめ 事とおすいてはつう月七 子外所以正正以出之期于风 世にの人りむとであまたした はれいたストー大なかかける 李原在在外的一君子之剛徒如雷在天上方能克去非禮 るが大ちはやちてい立ちか 然了べたかしおおれん のはてやしばるかれれ人 初九壮於趾征凶有字言壮於趾而征進其凶必然 象曰雷在天上大壮君子以非禮弗發雷在天上其聲山 本義釋利貞之義而極言之〇大者壮以氣言大者正 其為 進者也故有此象居下而壮于進其凶必矣故其旨又 本義趾在下而進動之物也剛陽處下而當壮時壮于 本義自勝者强士气持中在的另四矣 道正大而天地之情可見又推極其理而言之也一人名 五選與のれれか後のほしろと名大北かあると死名将于切你只るれれれ事在か支 サナ

要是我是我一个用比君子問也 大之大人行のるまれるる人 およるな中をめるい中 何元之類にかりでの大松した かいけるさせ 从各我了不在四的不为口人我 北島の以上の別在中治大年 中ままであいってでえがいる 第一日日子之本一家口壮于此其子躬也 上日地口ははたかませから 在的主意和在女孩上学 不民物ないたまない人る 中不正日貞吉戒之也宜臣上传夜五号 以不失其正故戒占者使因中以求正然後可以得吉本義以陽居陰已不得其正矣然所處得中則循可因 本義言必用窮有必然困窮之理 也〇郭氏雅曰九二因中得正曰貞吉許之也九四不 如此,

後れてでくるり 日子中以上者にあってる 此文惟石氏介與誠齊之說得之〇石氏介云壮惟小

お他で立ちませばれるの像表情我、五天 PERSE 表 之四自古俊亡藩决不赢壮于大與之朝翰之要處生的思考者要其 · 李養養 本義貞吉修亡與成九四同占藩决不贏承上文而言 後已藏與緊古字通用故雖貞而亦属而况不貞手用 勝喜於開故枝止於一觸之勇母於勝故怒及於无心 周无所用也蘇其用鄭玄作累 之藩然藩无心而能係角易往而難反終羈累其角而 强可以果於勿用不可以果於用故聖人戒之曰用之 則為小人勿用則為君子小人如叛馬喜於聞而在於 人用之君子則不問不用也〇誠蘇九三强之極也其 1-

粉布的古英音作品 大北宮は後らありかし サナンス 此次文中最い力方 不ら君子大孩子で傷力し 立夫代方の色記を失 以るちるか大の大手しる 被我们我后名在富之北 安全する大なられる不 一个 户徒七日中分徒多百 家日潘决不赢的住也前还因與可以上進也 ~亦有住進之喜與之大可往而進也 較之壮尤可往 泉占如此○誠蘇九四居近君之位得泉陽之助而能 之上皆陰文也豈惟添之决亦无蘇角之憂豈惟角不 觸藩而蘇九四不觸而决者九三遇九四之藩而九四 丁大與之襲亦可進之象也以陽居除不極其剛故其 也决開也三前有四猶有審馬四前二陰則潘决矣杜 以剛居柔不用其壮此其所以真也故吉而悔亡九三 子云製與輻同 而進也三十輻俱壮而與可往四陽俱協而時可往程

六五丧羊于易无悔象日丧羊于易位不當也 利力學表演院で五天 悔五以位言則正以德言則中故能用和易之道使群 位不當也故設喪羊于易之義然大率治壮不可用剛 陽雖北无所用也象言所以必用柔和者以陰柔居草 群羊无所用其刚是丧其壮于和易也如此則可以无 以來居上若以力制則難勝而有悔唯和易以待之則 停羊群行而害納以東諸陽並進四陽方長而並進五 則六五之才雖與也不相當乃所以為相當也德納於 而自丧者正以孫順和易之德而調伏之也故无悔然 〇誠解六五當衆陽盛强于下之時乃能使衆陽怙然

えるかし次の成之 すりとうなくまでかる 心を在於す出班する以前 かおぎてからあれ 本義壮終動極故觸藩而不能退然其質本柔故又不 變之義○葉良琢云上北終動極而六之才質本系故 過剛必至於自因上不剛故可勉之以親也兼壮終有 親以處則尚可以得古也〇胡氏炳文日上之壮已極 位位瑜於才故也羊即四陽也一年巴生五百五年私 能逐其進也其象如此其占可知然猶幸其不剛故能 能與以處之則為善用其壮矣故曰古盖許其終可進 有紙羊欄潘不能退不能逐之象其占无所利可知若 不能退六之質本孫不能遂然三贏角上艱則古者三 1 17 17

大江 与書をなる不一象日不能退不能逐不詳也進退皆无所利由自處之不 学路病房事人北 詳審也 製則吉谷不長也 格力不祥ニなえおことはど 大者壮剛以動得名然又利於貞大者正方是能全其 陽押除之意然剛不可過又頂濟之以柔如乾之群龍 **壮初九九三爻位皆屬陽剛故初凶而三厲九二九四** 以處陰位為美用壮處壮則觸潛夫〇看來此卦諸家 也 之說俱未盡然惟王輔嗣為得之聖人作易雖每寓扶 王氏輔嗣云未有違蘇越禮能全其壮者也故陽交近 无首之類乃為善用易者似不可以一例求也大壮以

居五為柔中為丧羊以和易之象故无悔上六為重光 安乎系而不進則吉艱則吉即所謂利於貞也諸交多 此而壮于大與之襲九剛而濟以四之柔剛柔相濟方 必正乃言而悔亡藩决不赢即本爻不極其剛故象如 以陽居陰故二戒以因中求正必正而後得吉四戒以 故亦有羊象壮終動極故又有觸潘象爻質柔而卦體 此知三之觸藩蘇角亦就本爻過剛致困而言爾六陰 動故進退不能而无攸利然猶幸其不剛也故能艱以 而五陽位互光有半象半剛很之物由五而取象而六 无困阻而可以行亦非止四前二陰爲藩决不羸也以 不 東南東 水王春

限土が以後四国受けるる 田北九日夜治年奏弘 三班下 ばカテ 使み あきまな者の不必係 我すれるきならしな 作出三十五五人九五三 第二名放 引 犯礼之在位 からていか用かいのアし 16年3月日天日春一晋康侯用錫馬番無思之者曹書门三接禮之者頻 子は敬死を多受大場らむ 工作学口室相志因名四年 出分れて 聖子に在るではなる使 \$P不安子思书力穿候~ というぞべて移近思生! 用事傳義捕殺 不五米 麗也〇順而麗乎大明之德為順德之臣而附乎大明 多受大賜而顯被親禮也盖其為卦上離下坤有日出 本義晋進也康侯安國之侯也錫馬蕃庶畫日三接言 之君又其變自觀而来為六四之柔進而上行以至於 地上之象順而麗乎大明之德又其變自觀而來為六 四之乘進而上以至下五占者有是三者則亦當有是 羊象皆以卦之互兒重兒而取非止以剛很而取也諸 **爻與卦解同只大象尚副壮自為一意爾** 7

第一号 安華養 恭道進而上行是以於康侯用錫馬番無晝日三接也其 美心是 有知明出地上離在坤上順坤臣而歷乎大明離君君明而以 ままま か彼をされた 加多地区入放城市工作出 龍賜親禮如此康侯非順者不能楊馬三接非君之大明 家田西進也大不明是上子明的原西明的中上不明分於百五一人 而柔者不能 本義釋卦名義以今進字釋古晋字 本義以針象對您卦變釋卦辭 親會同毛馬而煩之錫馬蕃庶也大行人公之禮三享 五為明而桑者之在君位〇朱氏震曰周官校人凡朝 三問三勞畫日三接也

おおれていまりはらい をあるとというと 分はないゆうちゃないと 初六晋如推如貞吉問字裕无咎 周易事養庸能見至長 象曰明出地上晋君子以自昭明德 相推抑者進之初人多未之信然推如在彼而吾不可 本義以除居下應不中正有欲進見推之象占者如是 之自强至明莫如日故君子以之自昭 才柔志剛不足於裕貞與裕皆戒辭也 以不正問手在人而吾不可以不裕初以陰居陽非正 本義昭明之也○胡氏炳文曰至健莫如天故君子以 而能守正則吉設不為人所信亦當處以寬裕則无咎 也〇胡氏炳文曰凡始進必資薦引四應不中正乃若 |

祖与支马西空里東 完在不及本方面でんさい 力をといるませれり人 一千只方女子爱的之人 まていかるまるかで ない · 在至考此里六二晋如愁如貞吉受兹介大福于其王母象曰受兹介 しませるけるひてるため · 第二日子 象日晋如推如獨行正也其所以吉以獨行正道也裕无 福以中正也 答未受命也即孟子無官守綽掉然有餘裕之意 本義初居下位未有官守之命 吉占而凡以除居尊者皆其類也〇初有應宜可進也 而欲進見推二无應若可愁也而受兹介福聖人皆戒 本義六二中正上无應援故欲進而愁占者如是而能 之曰自古盖不以應之有无為吉山而惟以不失在我 守正則吉而受福于王母也工母指六五盖享先此之

ホスチのヤ が必を上げるの物を恐る 天人死行不名文(三)此次之文 子子 美国地方的的人 在平平其人宣司治美 下了上不多子五年人仍站左 九日夕四年分五五十三聚名悔亡象田聚名之志上行也 子子よの二天状在ろど ろは私上からて 聖元 日日は出なけんに成 九四音如雕風真屬 おから 大明は大大人 所信而悔士也 所名從其悔所以亡也有順上向明之志而衆名從之 傅以六居三不得中正宜有悔各而三在順體之上順 麗於大明也上從大明之君衆志之所同也〇本義三 之正者為吉也 不中正宜有梅者以其與下二陰皆欲上進是以為東 之極者也三陰皆順上者也是三之順上與衆同志衆 何所不利古人曰謀從眾則合天心象云上行者上順 F

象曰施鼠真偽位不當也當亲進之時九四獨以剛進故 本義不中不正以稱高位食而畏人盖危道也故為題 成功也故曰真愿此說取備 先九四以剛很之貨超貴近之地處群下之上彈三除 風之象 日者如是雖正亦危○誠齊處逐惡後處晋惡 上不許共承下據三陰下亦不許其據事同鼫鼠无所 谷能穴不能掩身能走不能先人九四失位上承於五 之前貪夫位而不思釋畏乎下而恐見奪如距鼠然雖 正亦危况不正乎〇孔氏額達察邑云範鼠五能不成 技謂其能飛不能過屋能緣不能窮木能将不能渡

至后於高之至一六五悔亡失得勿恤往吉无不利象曰失得勿恤往有處 本了人口五年四件五大人口方 衛紀不出世 生 あ実の 東西村とは在は大きは一也一位云いたいしに成立てしたからてからる意大 全由的美国上海东部分级 甘以你也甚不太美年一位 西左四五紀正義 王下宮州代かなる 五人我和父母如何独切 即為此以英部悉人 厚有的四人先三十二日日 丁化る 你 受以了 のうしゃ 周易件表待赴人五关 進之義於自為屬於位為不當 本義以除居陽宜有悔矣以大明在上面下皆順從故 六五是己六五為自昭明德之主天下臣民莫不順而 占者得之則其悔亡又一切去其計功謀利之心則往 吉而无不利也然亦必有其德乃應其占耳〇張氏清 池 旅蘇以剛根之强臣居逼近之高位九四處之固不當 子曰待衆名而悔亡者六三是已不待衆名而悔亡者 14:

あったかいかさんします 不此場写然矣 文しなの立るしめる 内状化二五五七 京天道上表 年光至 育後發至知路多 孝を田田しない後である 在于不愿上加一般古代 かるのか はってののかね 有春之年至少個八次也 往吉无不利也〇談齊六五柔主也宜不立者也宜恆 麗之何悔不亡首能得失不累於心勿勞憂恤持此以! 各宜憂恤宜非吉宜不利而聖人斷然許之以悔亡以 晋之主德切日之出地此朝日也天下已服其明矣初 卦或得其一二已為卦之盛今六五柔主号為能兼此 勿恤以往必吉必无不利又勸之以往則有處且夫檢 六五又慶也往則无不利矣六五又慶也是四慶者心 則亡矣六五慶也恤則勿恤矣六五又慶也往則古矣 出之朝日而遽若方中之烈日天下其不旱燒明死失 凹處而有之 日主德尚剛惟晋之一卦主德不尚剛盖

夏ないの見らかしれるかき 木光 山にらられ村属于方かを見えないは果方のいるから 民的中山と海母笑なな 女生ふられしたるなべ まれせてはるましれえい 去 在後里是一上九晋其角維用伐邑属古无谷真各象日維用伐巴道 強きな必要者は弱しな 石子前しまい中におし きれは出入者 幸るかる なるとはい方大王を吹しき!! 九学和学文在在否記到易事是新走! LE 七九岁十七 まけまのれをきいるのの 古は花巻のこかかけて連 XX四万元字 侯出公田上 立哉 盖日之為明朝則升中則傾君之為明柔則容剛則窮 明之資進而至於首又進而至於角剛之極也明極者 此爻之說惟誠齊似之今為酌定其義於後上九以剛 必窮物剛極者必觸物故不勝其剛而无所用之雄思 六五晋之盛明之主也宜其福之盛也孰謂其柔而不 乎惟柔故明而不詹燭而不察叔而不烈大抵日中非 日之盛而莫盛於朝日剛明非晋之盛而莫盛於柔明

第一日的人的人名 明光土掩日光高明夷日食之说今星命家言之為詳盖中子中人不是 一一脚上 医讯光证界子分加收收 日や内雅し指不りを明う 常田の人でるはなてる し体不るめれ はんなるかるない事を は失去のおいる他之子追っ 是て大中存したよれれ吃 人一名唐在一年分月上 おっとすててを放 色も三次的 平山きては 伐人而已其伐人也不能威服天下亦維用伐其私色 之坤在部上可見也 以計者上之餘上計二星能掩日月之光故其行與日 許其吉而无谷或挾其剛明而自以為真固則為各而 而已聖人於此以為若不用剛明而有自危之心尚可 已矣各則維用伐己於晋道未為光大此其所以可各 月通相值而食令且之為明夷殆即日食而見傷者觀

かき 英名のき 山の中 四て信したユニのほえる 発生店を けっしりれる なしばや おおりる五月二七四日大子 五近しかすべてる時に打 ~女神以六世的七云五岁 以何是在日本公务代 天子子子用和北倍成四川 下午の八二母之かありを信 別いか共分で 加州山守 共和 与三方电 でしょうだらんのはない 男兄 アナン父主が在数不 明夷利親真がみがないたとれるなくにはるちゃんはなるあるから 月からとれを した **录曰明入地中明夷** 所作也於坤曰安貞吉於明夷曰利點貞終守臣節而 故為明夷又其上六為暗之主六五近之故占者利於 不失其不可見於此子 本義夷傷也為卦下離上坤日入地中明而見傷之象 時也明夷昏暗之卦暗君在上明者見傷之時也 義與晋正相友晋者明盛之計明君在上群賢並進之 艱難以守正而自晦其明也○胡氏一桂曰卦辭文王 傳進不已必有所傷明夷所以次晋也反晋成明夷故 11.11

はいう不容不敢も存む 第五人之灵的是利果真晦其明也内難而能正其志其子以之死的大 はほんの食ましみをもま 言者を於けんいかみ 一方と思り面立て一名を水 方言なる内方社主家強人 光子白春不化一面中子り 以後の気七大な四島の仕 見歌風し心社不の直色 的至何也仍是永正上起下四 女兄らいなるしななる不 多我 ゆるなしなかるい 华京首門夏福門內文明而外柔順以蒙大難文王以之 至了在天下在 不信 古男子花は十三九五 松美 一公かる大多月おる 本義以卦象釋卦名 傳明入地中其明滅也故為明夷內卦離離者文明之 柔順也昔者文王如是故曰文王以之○本義以卦德 象外卦坤坤者柔順之象為人內有文明之德而外能 釋卦義紫大難謂遭紂之亂而見囚也 之時身處其國切近內難能嚴晦其明而自守其正志 明長之時利於處艱之而不失其貞正謂能晦歲其明 也不将其明則被禍患不守其正則非賢明其子當行 三王

外できていまいて死し おおまら用味るのでいるの 因分数大名俗书一時圣美字 五国子教外第行名しる2月3 唯るである。 在北北1日之生 兄女子とは村から手が上在の 世不此母与世的的 一門りり ころなるするいろろのな 将一八分五次二十七十二 七年的七年就从天本在 歌王美 次容好以五光後 ゆそれるおうえてな 包之五本古不在以上 子のまではあせしまた 京西 有言のなみだけるかいるなした性の在程をりになばれるではかんとは名がも 初九明夷于飛垂其翼君子于行三日不食有攸往主人 傳古之人君設前旅屛樹不容明之盡乎隱也 六也 義當然不得而避也〇按飛而垂翼于行而不食有所 如而所如不合傷雖淺而亦不免於傷之喻也三段俱 本義飛而垂翼見傷之象占者行而不食所如不合時 其子所用之道也故曰其子以之〇本義以六五一爻 釋卦辭內難謂為紂近親在其國內如六五之近於上 の本内

学がなせ

の子品の五年神経る国 任台史日外校 的名名 公安春の付けると不多生 あかてるたらなかはや 一月はこりもろるしまかず 工程其实图片四百千万 ではのいこれてるはかさ 九月 梅之以中 第一四一程 地段及即出 八谷利米子中立名孙客 |六二明夷夷于左股用拯馬壮吉 象日君子干行義不可食也多美七上岁多年死切次去粉之子子 作譬喻看○初去暗稍遠恐見傷而避其伯夷太公居 者手足之用以右為便唯歌張用左盖右立為本也夷 梅濵之事乎 傳股在腔足之上於行之用為不甚切左又非便於用 松用壮健之馬則獲免之速而吉也〇本義傷而未切 本義唯義所在不食可也 城之速則免矣故其象占如此〇首九家夷于左股大 于左股謂傷害其行而不甚切也雖然亦必自免有道

年収出るや 南部公乘人正不机合行 上このかいまんえんぎしみ の気したかで 子面是十二分化し保着 存むはみかな三段係 名子なる場合好力用ならな 害大首暗魁即上六 周易傳義清疑人五卷 九三明夷于南行得其大首不可疾自南明方符败而除 象日南行之志乃大得也以明去昏以順取逆 桑田六二之吉順泰以則中也 年之义而後代針此所謂不可疾負也 武王伐紂之事不可疾自以不可疾為自也武王須五 以巫也故有不可疾貞之戒〇三與上應以明杜暗姦 上六間主為應故有向明除害得其首惡之象然不可 本義以剛居剛又在明體之上而屈於至暗之下正具 王四于羑里之象用松馬壮閉天散宜生之徒是也 Ť

六四入于左腹獲明夷之心于出門庭坤為版又坤陰支 有門象 顧行逐之時所謂入于左腹得明夷之心于出門庭也 微子事腹上之腹也左腹循心之隱微處明夷之心亦 截而明妥也故為酌定其義於後○六四一爻分明說 武王言言微子探得針之隱微而知其傷明之心於不 上之心其心傷明之心也出門庭則九三矣九三盖指 於外說未然本義及丘氏行可其說似矣然亦未為直 按此交傳與故齊以為 邪臣盡暗君之心而後能肆行 初與二既為伯夷太公與文王事三爻既為武王事五

以四次了以子为西等子 西直版四下代品及東日入于左腹獲心意也心意暗沿之心意即所谓明夷 称なむてし 安年一日伊安北北於於門 如美的教处是一六五年子之明夷利自己在父子不是教士是安全的称为人美 方子の大大公子山ら もいばらしますからはら 竹のなりを確なほれつ る時の明白城や沈明白 があするのの一日からて とかいれくす 方的地ですや 上六不明晦初登于天後入于地 泉户其子之貞明可時不可息以其明在內故 シンシ也 月日子民市民 八五天 第子之象也貞之至也利貞以戒 占者 本義以除居中之極不明其他以至於晦始則處高位 本義居至聞之地近至開之君而能自晦蔵以正其志 無疑矣立氏行可說同以依上去的化本以及气 爻既為其子事上爻既為紂事則此爻断断乎指做子

安子中的公共五日十二二年上少女不の方共以家事的取长的了中的的战争且长生上的安成改生生大人有势之女的强于 二二部下男子中国与王八二人也少了七分中二人也和取二的房作而成形成 さて指力りしまからかん すがはしててして)をほびこ 象曰初登于天照四國也後入于地失則也失則所以為 計順則所以為文王 占亦在其中矣 本義照四國以位之高言〇丘氏行可曰明夷以二體 以傷人之明終必至於自傷而怪敗命故其象如此而 言則離明為坤暗所傷以六爻言則上一爻為暗君自 傳夷者傷也傷代外者必及於家故受之以家人失傷下部仍死 上一人日不明晦而獨不言此傷人之明者也 五而下皆為所傷所以下五爻皆曰明夷此受傷者也

日次七十日俗的交通 りりまえるモー 以今日季十位的BB其五 在他打了马其文之北京的 成的知代文品官之及至于 歌文 ル大がしなというなうち かけなってるべるとで 好母取失如英王 色達を放うむする子な ではらしてはら中では一个人利女自治し日本の一天下今天 おのうましなのな人とよ なれる信息を大馬見 そまる場合のおめをか 美世五花のなしんぬ水 大人が大いりは不らなし **森言內離明而外異齊也女德未正他事雖亦本己亂** 長女而位四離中女而位二以柔居柔各得其正此亦 矣故录曰利女貞○張清子曰家人合異離而成卦毙 内也内正則外无不正矣〇薛仁貴曰明乎内者家自 五六二內外各得其正故為家人利女貞者欲先正乎 女正則男正可知矣〇本義家人者一家之人卦之九 家道正獨云利女貞者夫正者身正也女正者家正也 傳家人之道利在女正女正則家道正矣夫是婦婦面 困於外則必反於内家人所以次明夷也

一日ではるか人地をおけ なるのか。在ふなるるのはな 出不みてかかるいか一丁之子 起作事を日かかけるまつ 次布 臣 双上四位东西外部 のなめたしまりも立み *火×日政行 从记起中的 でかるるいされからて大 七分四及男女 计小时的人 不是中心 以另合於刑一也 からずえかて 気が中代でするこれで 具在者を上下記也必る果成 京山水田 しばたずれ 見大ないる大山の大体でも **教日家人女正位手内男正位手外男女正天地之大表** 以日本日本村其一日天 家人有嚴君馬父母之謂也及天忠家也臣官中国上如や 盖母之不嚴家之露也濟上下之分庇子弟之過亂內 本義亦謂二五〇趙汝祺曰父義母慈母何以亦稱嚴 也〇本義以卦體九五六二釋女貞之義 各得其正位也尊甲内外之道正合天地陰陽之大義 傳录以卦才而言陽居五在外也陰居二處內也男女 利女貞之義 外之别慢惟薄之儀父雖嚴有不能蓋察者必父母尊

人如为是作一年任初:出 けれるるべいるのなかし 不为外口存任讲学艺以 お人の見んしずらける 松見一名之人場おから有 我日九四班皇不為し去 **→放送区や区域の人を放** 本中是项上系尽原价合改 指われば水化なうりようり なしずれるかのかなし はま山田はいんからられる 日元だ上村下るこれ一内 神をなのる 杏儿出做你不是加上与 矣 一象曰風自火出家人君子以言有物而行有恒 其道而後家道正正家而天下定矣 之者於外由言行之謹於內也言慎行修則身正而家 有物所行必有恒也物謂事實恒謂常度法則也使業 又有此象 本義上父初子五三夫即二婦五兄三弟以計畫推之 嚴內外蘇肅然後父尊子甲兄友弟恭夫制婦聽各盡 傳君子觀風自火出之聚知事之由內而出故所言以

安西方成一届安をます! るるなみがっつ 必任それをひいからかを をがなりるるもりつべばの 初九開有家悔亡 傅初家道之始治家者治乎聚人者也尚不開之以法 篇之火也大凡鼓鑄頂是鼓得風從火裡出索 衛自有 治矣〇本義身修則家治矣〇西溪李氏曰此火及雲 傷思義害倫理无所不至能以法度問之於始則无是 度則人情添放必至於有悔失長幼之序亂男女之别 业 也器也皆有模範君子體之言行身之模範物恒其則 失故悔亡也九剛明之德能開其家者也不云无悔者 箇戶庭屬與家之象也就中必有模範風也火也金

做其日於本男的他上一六二元攸遂事成在中間自古親後日初子五夫從子從 朱内田五年云路人之初路五 对对例四条本文·林·诗以公 がたころも 家已分置行行五夫名所港志 東日開有家志未發也らなん+はあて 本義志未變而豫防之所謂教婦初來也〇誠蘇婦訓 傳家人卦大要以剛為善初三上是也六二以陰柔之 身之正也何悔之有 始至子訓始群及其志意純一而未變也初九處家人 家之始能防開之其悔亡矣戒占者當如是也 群居必有悔以能開故亡耳〇本義初九以剛陽處有 之始初而用陽剛之嚴治有防問之遠慮一日之正終

大大生长环九四指在後 一下 5 月 第 月 1 月 る作三中ゲラス大 おれるはっと大きぬでと 好作不一张言己 少かがながとう見けんなる 惟惟か舒果る兄弟人了 せてかれいえんてきらな 五子份外代的人 秦王老八山元出人一些 西足のた路ざ耳 日色不常 艺艺士哈代帝 矛信のおいえ飲べむる 家曰六二之古順以巽也順從乎五而早異者也 九三家人嗚嗚悔厲吉婦子嘻嘻終各梅自四而古各自 才而居桑不能治於家者也故无攸遂无所為而可也 聖人替而察之曰順以異也 尊其夫的然差飽祀以事所職正執大為吉孰無馬故 遂事必有尊也言有夫也婦職餓祀必有敬也言有先 吉婦人居中而主饋者也故云中饋○本義六二柔順 中正女之正位乎內者也故其象占如此〇誠蘇婦无 如二以柔順處中正婦人之道也故在中饋則得正而 也六二以柔順之令德宅壺内之正位退然无攸遂以

ならぬるで、てて例付し 時世日以降協山本流去 ズ上や 此小春のよるよ何である 生る四れゆをでしかまり るなべとははないだ 各のするめるれ 西西山 為應故兩言之呂伯恭云此义如對兩家而言 之象如是則雖有悔萬而古也鳴鳴者嗚鳴之反比乎 肅人心祇畏循為家之古也告婦子嘻嘻則終羞在矣 喝高然治家過嚴不能无傷故必悔於嚴厲骨內思勝 二四两柔之間故又有此象本之道也占者各以其徳 〇本義以剛居剛而不中過手剛者也故有嗚嗚嚴厲 嚴過故悔也雖悔於嚴厲未得寬猛之中然而家道於 雖得正而過乎則者也治內過剛則傷於嚴急故家人 傳九三在內卦之上主治乎內者也以陽居剛而不中

方は方はなる大阪化の主候 奉家皇初中日下一九五王假有家勿恤古 中之写在 好供刑未安公正七出光 智泉利·王君布下家田家人嗚嗚未失也婦子嘻嘻失家節也是中一時人 なるなるなれな子ですない 在你的名字以前回也如 行おりとてれてる内で 上別をなるの何一日本でい! 西京が英不平ろう 六四富家大吉桑日富家大吉正而異順在女位也 富非以富而富也父子夫婦各順其位而不相喻越是 尚九家假與格同正也王假有家如虞舜嫡帝二女而 卦之上上卦之内其家人之母與思森太任是已 本義陽主義陰主利以陰居陰而在上位能富其家者 謂富矣易之富家即記之家肥也六四以柔異而居下 也〇誠務六四之富而吉吉而大聖人釋之曰六四之 四方風動文王刑于寡妻而二南嚮化勿須憂恤而天

松工之外 地社五日家多丁下片王 不会が教をおしなべ 一切他者大を社なしな 下平定其吉可知己〇誠蘇九五以乾德之剛明居哭

南易事使南泛大五春 義當從此 吉也○丘氏行可曰五劉而得中威而能愛盡乎治家 李為父以太任為母以武王為子以邑姜為婦其不交 此所以感假其家人以及天下莫不人人交相爱勿憂 之道者故人无不化可以勿憂恤而吉也假有感格之 **邦此交相爱也仲尼頌之曰无憂者其惟文王此勿恤** 相爱平故詩人歌之曰刑于寡妻至于兄弟以御于家 位之中正為天下國家之至尊而爱心感人異而入之 天下之不治而自吉也以文王為君以太奴為妃以王 11411

成如者也 象田王假有家交相愛也感格義亦在交相愛之中 上九有孚威如吉劉牧日初終不易有孚者也陽明在上 道占者必有誠信嚴威則終吉也〇胡氏炳文曰九三 能終吉保家之終在有子威如二者而已故於卦終言 非至誠不能也故必中有孚信則能常义而衆人自化 傳上卦之終家道之成也故極言治家之本治家之道 程子曰夫愛其内助婦愛其刑家 之〇本義上九以刚居上在卦之終故言正家久遠之 為善家之患常在禮法不足而清慢生故必有威嚴則

象曰威如之吉反身之謂也 うって「もし 吉中也為人夫故在假有家然也為人父故上威如吉 交男子之事也女子之道始也為人女故初問有家中 終古矣 **录解女正位平内也男子之道始也為人子故四當家** 也為人婦故二在中饋終也為人母故三家人嗚嗚即 本義謂非作威也反身自治則人畏服之矣〇丘氏行 隔隔處家之過嚴九五威如律身之自嚴到未有如家 可日家人 人皆吉者然始之吉易終之吉難故心有誠信威嚴則 一卦先儒謂内卦三爻女子之事也外卦三

子的正太口苦看母子 がある日もやいちまこ 祖の名は職場のは 出位が安人で上す とるかけるかなろ 八つれるほんのう歌はは 王伍顺上看於仍循而数 大きすけるるなのなれた 中華以付受力化の子を乗 り、日のナカのかろうと 吸小事吉 || || 名下沙極在たの水外か正山岸通南白大母死万用了な本か三州学不力国 即暴鮮男正位乎外也 本義縣無異也為計上火下澤性相建異中女少女志 離散理必然也故家人之後受之以睽也 傳家道窮必垂故受之以睽睽者乖也家道窮則睽中 人來者無之以卦體言之則六五得中而下應九二之 之則自離來者柔進居三自中孚來者柔進居五自家 不同歸故為睽然以封徳言之内說而外明以卦變言 剛是以其占不可大事而小事尚有店之道也〇孔額 1000000

めの在後しる二なりでは 正れてきまな妖がられの 初めたらするしょうと 実具等ごぶんんかなす ないながればればいる 其子於大方面又因主義 去你是之不樣不是人数 ちずとかたちのはまったい 四本女の小子大女主小オラ! 以各属好以之我 你行多的 かなくかがらなるたるとのは 第 表太好好之中文 門田田作中文的形以干土 | 录日睽火動而上澤動而下二女同居其志不同行 The second second second second 達云联者垂異之名物情垂異不可大事大事謂與役 循可得吉也○張清子曰離下名上為華名下離上為 五則可以大有為矣湯武之革命應天順人是也 以六居五而九居二剛柔失位故曰小事吉若華之九 **睽華以九居五而六居二剛柔得位故曰元亨利貞睽** 卦而柔進乎五其才不能大有所為故以之處小事則 衆力雖垂而可故曰小事吉也○丘氏行可曰小事吉 動衆必須大同之世方可為之小事謂飲食水服不传 **柔為卦主也凡卦陽剛為主則可以大事联合完離成**

作はし人る様を大三全生 以大百年古具 オウルララン 李成是不是一部一事吉雖不能合天下之联而成大事然亦可以小海然及是不是是治力說而歷乎明柔六五進而上行得中而應乎到九工是以 古なるそんでいけたが 来有子を正述三法 我好以不孝及可好百年之 相差实是ALXC不四不 打一丁子了世代后は張さ 四位古时 工程而于为心化业不主子 関サ左尺3 四年し以子を変え 二十二 月子 白事 有表 一五元 尊位有說順麗明之善又得中道而應剛雖不能合天 炎上澤性潤下中女麗坎季女配艮其終未常不晓也 本義以卦象釋卦名義〇林栗云離火名澤同賦形於 傳卦才如此所以小事吉也方联乖之時六五以桑居 下之縣成天下之大事亦可以小濟是以於小事古也 天地中女季女同鞠育於問門其始未當不同也火性 縣之時相與之道未能深固故二必遇主於巷五噬膚 五以明而應剛不能致大吉何也曰五陰柔雖應二而

別は上全美をあたる方 外は別を集古ると不全な 元報·名中三五類也 睽之時用大矣哉 の其合の様の見以て収集 でおすあする歌かかかん 不以本の一本日のた日の七代 神疾を口げ情を取るのる形は ゆるでするいがかいまれる 至日存在我至原地不此上 できたかか スガる 俊美 中を全る用をは明され 大阪でDray 多ので表のか 我我会我女女班主子多 傳推物理之同以明縣之時用乃聖人合縣之道也見 同之為同者世俗之知也聖人則明物理之本同所以 此三德故可以行小事而獲吉也 之貴得中而應乎剛非為全弱雖在乖違之時卦爻有 也〇孔額達云說而歷乎明不為邪僻柔進而上行所 嗣云事皆相違害之道也何由得小事古以有此三德 而後能合也〇本義以卦德卦變卦體釋卦幹〇王輔 則无咎也天下睽散之時必君臣剛陽中正至誠協力 花成典大學五姓五 中でる大正の生の日子名 きまって まかとかと でである」時でわかずや小 世人で東大大学をみる 作有級の大阪名がかると 限ライる日かきの心穴 小は不明るなみをかる 吹くるか吸しまれるかえ! やいのから大台かる夫 不外五人子は日上からなる かみでを至いしかならる 子は日本は日本日からる マラナヤーのおこの生 月易好奏衛差四五人 其理而賛之 傳上火下澤二物之性違異所以為睽離之象君子觀 睽之時合睽之用其事至大故云大矣哉○本義極言 男女異質胶也然而相求之志則通生物萬珠睽也然 地下其體睽也然陽降陰升相合而成化有之事則同 故天下之大群生之泉縣散萬珠而聖人為能同之處 而得天地之和禀陰陽之氣則相類物雖異而理本同 能同天下而和合萬類也以天地男女萬物明之天高 股異之象於大同之中而知所當異也夫聖賢之處世

おきはきるののます 大村は安西される不 古日的作用了以代本社 日かれるなかれるのです 因うるな明のなかとう スドロヤー ひからかそろ 生えからす。使める山の 民国力が大阪中氏社ん ようこんてふかれると 我在小石 九人日 不信のい日う女をかま) 水火矣君子亦何必好同而惡異乎〇隆山李氏日孔 性不同〇誠齊禹顏同道而異趣夷惠同聖而異行未 常拂理之人也不能獨異者随俗智非之人也要在同 盖於秉爽則同矣於世俗之失則異也不能大同者亂 子於录言睽中有合所以青君子濟睽之功象言同中 足為同而異也孔子一孔子而疼魯之去異運速孟子 在人理之常莫不大同於世俗所同者則有時而獨異 而能異耳中庸曰和而不流是也〇本義二卦合體而 有異所以論君子不苟同之性君子之性不苟於同而 一孟子而今昔之饋異辭受此同而異也乃一人自為

はだちいのよくてあななるこ ですばてでも時 なんかの 女子ななますのにとない バタかの後に代个理事 万克甘品公司十七五 おかれたき 好學之主花在行是丧馬之象四既與之合則能行矣是勿逐而馬復得 四四八五紀母九年 经分差其時度表問姓 のかせばれば四年か全日 みなる出学からほう 大四於 形的指犯工名 天 并 二 明 推定 不らずれらるはは大大大 東初衛養橋安門五条 之家也 初九悔亡丧馬勿逐自復見惡人无咎受獨无與則不能 盖如此 其出而同心協力以合天下之睽異者則同录象之意 傳九居卦初睽之始也在睽垂之時以剛動於下有恆 相應者以在喉故合上下相與故能亡其悔也馬者所 同類相合同是陽爻同居下又當相應之位二陽本非 以行也陽上行者也睽獨无與則不能行是喪其馬也 可知所以得亡者九四在上亦以剛陽睽離无與自然

好えまるのまかしるる い歌呼を移いるなわ 丁京 素な雑ないたると 起之七件下七三の食作法を此 香水中を公田者あなかなく 中国四世次今五会元素 三十四年 北川田佐太左りな 生ごをてかかな思るまち 世下かるば~軽ある金 方ははなるがまやそうでし 其在公人姓子的工士成为七个 也初九之與九四上下異趣而相叛水火張性而相賊! 善而使之合故必見惡人則无咎也古之聖王所以能 丧馬勿逐而自復之象然亦必見惡人然後可以辟谷 若棄絕之不幾盡天下以 佐君子乎如此又安能化不 惟相叛故初犯動而下固不與九四而為使此四動而 如孔子之於陽貨也口誠齊此聖人合初九九四之際 化姦凶為善良華仇敵為臣民者由弗絕也〇本義上 无正應有悔也而居敗之時同德相應其悔亡矣故有 垂異者也見者與相通也當睽之時小人垂異者至聚 四既與之合則能行矣則勿逐而馬復得也惡人與己

原是任务代表一个五者 少上覆下承之器 環之以上下四方之火是也又離日 火上則個今火在水上亦能個何也盖水火相遭有自 也常勝能焦大澤者也初九之於惡人能不以避為避 以舒不以亞之道也相如之感廉頗子儀之安光弱是 九能聽其去而勿逐須其定而自復是以悔亡此合際 上亦舍初九而不與俱依食我而去故有丧馬之象初 下涸上者門釜是也有自上涸下者實水于中而盛之 九四之火則涸彼變我而我涸故有惡人之象且水在 也惟相賊故九四之火值初九之水則炮初九之水值 以見為避是以无谷此合際以宏不以福之道也孔

でイエ表: るよさ不利益 おお生在主中が知らかん 五合口作以用目口之会 如又不好 常仇于民 山本 又 至人也 内は大きにき三年またる すれば十十三十十五万之子文 大行的海山上下侧好意 なるまだれ あるちいにほしり 地方治外、職一日の意れにぬ 百根全意子字形相合 九二遇主于巷无谷巷委曲之途 家田見惡人以降各也ないよりおうて出来者不せた方はで 人矣孔子之不見陽貨是也且初九剛也而能舒且宏 傳一與五正應相與者也然在股軍之時陰陽相應之 外 本祖本本本五三八田、ライで湯し持ち 子之見南子是也若非避谷乎惡人則无所事於見惡 初九降屈以下於九四故為見惡人水在火下故為時 五之君道合則忘行成濟揆之功矣而居睽雜之時其 道東而剛柔相戾之意勝矣故二以剛中居下上應六 何也說故也初與四偕乾體而同陽德乾為馬故自復

我大不安有港門云班子 おれ大不主程が至るすで 事時 やましてけるころで ないぞろるん 左子をせるかのでをを見 五十八枚数十八八八人 世末英二山元君中正乃上 九十三月秋原古世宝七 巷必能合而後无咎巷者委曲之途也遇者會逢之謂 五皆不應諸久而乃應九二此應之專而莫之分遇之 其象占如此〇誠森此聖人合九二六五之联也联之 諸交皆假之睽惟九二六五乃叛之合今諸交皆不遇 睽之時華戾不合必委曲相求而得食遇乃為无咎故 交非固二當委曲求於相遇與其得合也故曰遇生於 獨而莫之並者故日得中而應乎剛又曰遇生于巷君 就使合而已非枉已屈道也〇本義二五陰陽正應居 也當委曲相求期於會遇所調委曲者以善道定轉将 六五而九二剛正之大臣刀得過六五寬來之明主六

出仍是五沙海南上原門象日遇主于巷未失道也正的打造四七老的形像四个人生人之下一个言之上是象日遇主于巷未失道也或森以道為路恐未然傳是 おおなずるおかったるのう おこらのおとうこかをおいる 内明水ケニらってからかの おおこれをおおいろいとうまと 出一个人工五许海南一个人 おおぎきしれて らかばれお でれるいがなったナニかった 傳除來於平時且不足以自立光常联雜之際乎三居 本義本其正應非有邪也 工剛之間處不得其所安其見侵陵可知矣三以正應 約晓二遇巷乃聖賢達節之事非狷介避世者之所能 知唯二之才剛而得中足以行之故有其象如此 侯之事子此所謂小事吉也〇投委曲求合如坎四納 時一也主弱二也諸爻皆終而寡功三也其平王晋文 臣之相遇如此而止曰无谷何也有三不幸馬當睽之

三四人住人の以行かる古 かる山本教教を名を近の方 光信の大声男三の在子野 五六海其人和主部十二分 田田君母教が世之ころか 作がかのえしあるこれと 不必必治中七次多 专一也一直投下四季 がなせる美 大小学のはあるりかま 出神多公文丹主西凡出 京年屋 二四こ 四九子乃 外 なりはおもちなる三十十八十 月 日 作 美 社主 截鼻也天而又劓言重傷也三不合於二與四股之時 曳前為四所掣而當股之時上九猜根方深故又有兒 從上刑之故刻其額二從下刑之又截其鼻〇誠齊此 達云刻額為天截身為剝既處二四之間皆不相得四 剝之傷然形不勝正終必得合故其象占如此○孔顏 也〇本義六三上九正應而三居二陽之間後為二所 終合之理始為二陽所尼是无初也後必得合是有終 自无合義適合居剛守正之道也其於正應則联極有 行之具也與曳车於後也牛掣印於前也天死首也朝 在上欲進與上合志而四阻其前二奉於後車牛所以

リョフターととある シート **曳本无車掣本无天且劓疑故其見如此乃意見之** 氏炳文曰火澤之睽生於動三上之睽生於見本无與 遇上九之應力主之於上故睽於初而合於終也○胡 上其傷我必矣然六三以柔順之德和說之極而居二 進而犯九四彼阻我而不得進我犯之而必進彼在我 於前六三以茶居剛惟柔故下不能制九二惟剛故上 **聋睽而不合哉睽之者九二九四也我欲行而合上九** 陽之間處重除之位位不安而德足以調伏於二剛又 則九二牽我與於後我欲進而遇上九則九四掣我牛 聖人合六三上九之联也且六三之於上九正應也号

下京以下 三香日花以及 が次をコノーかど立たる かるのが上の名が美了 第一人在 於不幸多さ 文以知在常处以五季季] B和何至不乃久送·女子 なけれるでいっかったの 古又はててたなりて左 的英を養易する 為力はなえる石の内な 改進之之年三四、七五 供考是近分分野了 九四條孙遇元夫交字属无咎 象曰見與曳位不當也无初有終遇剛也 谷者也以遇元夫而交字故得无咎○本義睽孤謂无 終當有合耳 雙湖胡氏一桂曰此爻辭最險盖以不正之陰乗承應 應過元夫謂得初九交子謂同德相信四非危地然當 傳九四當睽離之時孤居二陰之間處不當位危且有 又皆不正之陽故進退无據而受刑傷特以陰陽配偶 非真見也其見如此故无初正理奉不如此故有終〇 联時故必以危腐處之乃得无咎占者亦如是也〇孔

是是我的是我的人家田交手无给志行也常作的人的 具物二陽之志得行 がなるのそれが多と立 がおそ 次かとかえなり立 全コルな美 地の最新的我也完了る 其意物以北北地是为於 本中金み切り以のおか社 事金をないなるが何か 任意なるがなるなる 1月37日十七日を 也 雨也 行其志以合天下之縣何也與在下之善士如初九之 間孤立而无與危厲之不暇乃能无谷此已幸矣又得 誠齊联者垂之極孤者睽之極九四以獨陽處二陰之 志相善不期而會故曰遇○李光云情以疑而相睽惟 言夫者盖是丈夫之夫非夫婦之夫也〇陸徳明云同 剛則足以去疑而相合故四終於遇元夫而上終於遇 類達日元夫謂初九也處於卦始故曰元初四俱陽而

各時できまちりの政か 山方五田文江 大き 香味をやや のある人方の見る心具は 一六五悔亡厥宗噬庸往何咎 象日厥宗噬膚往有慶也 Such Sales was the sales 士也 炳文曰二五剛柔得中故五以二為宗其合也如強膚 噬膚言易合六五有柔中之德故其象占如此○胡氏 本義以陰居陽悔也居中得應故能亡之厥宗指九二 以情親下也主尊之也下當以分嚴上也 不可行何難之不可濟哉豈惟无谷又何厲矣元夫善 同德相遇以誠相交以信是故孙者朋联者合何志之 少易二以五為主其合也有于巷之遇宗親之也上當

今客何好龙平的上九联孤見不到金載起一車先張之弧後說之於匪冠 發見為一族行為此人 婚媾性遇雨則吉 傳上九股極則鳴戾而難合剛極則躁暴而不詳明極 當之得之矣 則過察而多疑此爻有六旦之正應實不弘而其才性 **睽合之難也今也乃能合天下之睽如噬膚之易者何** 誠齊六五以陰柔之資而居君位宜其悔宜其咎宜其 之離而况得剛明之君乎程子以成王周公劉禪孔明 何谷是以有慶大战位乎有其人雖弱君且能合天下 也得九二陽剛之宗臣以佐之之力也是以悔亡是以

疑盡釋而联合也上九之與六三先联後合故其象占 疑稍釋也匪冠婚媾知其匪冠而實親也任遇雨則言 見其污也載愚一車以无為有也張弧欲射之也說弧 以剛處明極緊極之地又自倩很而垂離也見豕負塗 如此自睽孤也〇本義睽孤謂六三獨二陽所制而已 有所應初喪馬勿逐至四遇元夫而初四合矣二委曲 如此〇馮氏奇之曰内卦皆睽而有所待外卦皆及而 也 兩而三上合矣天下之理固不能义合亦未有終發者 以求遇至五任何谷而二五合矣三與曳牛掣至上遇

おらやしてかくすると 也国山西於回收日本 明本なるとうはらのいを 第三年第一条日遇雨之吉群疑让也 送五十时格一旦大种的 地心化一時市時存出が 御文作と你也三两名人 そう 秋田野 大気が出る おりんろわえるら 日かけないかわこしと 一周易是表情最大主奉 **渙然而釋以上九之至陽遇六三之至陰陰陽相和而** 群起而若不可解矣為六三者安得而近之此上九之 為雨則群疑釋然而俱亡矣先張之弘後說之弘以畫 下之至明亦不能釋天下之至疑其初雜然而疑其後 所以孤也然惟天下之至明為能生天下之至疑非天 之弧疑其為冠後說之孤又疑其可親而非害已疑心 非好見不自注疑其職已載鬼一車又疑其祟已先張 誠齊上九有六三以為正應非孤也而云睽孤者居難 明之極過於明也過於明故過於疑過於疑故无性而

所作名女が不二八百日 考れ 与女 放れる分声で 其老的人民及晚期气 本去去二年中 致灰风云 関係をころができた方因 至原将山之光不在亦 **逆所又患り、全宝雨し** か長和兵四仍免切 死後されたからで だるを 実はりゆうまたうがった 学へこうなかめて後をもれ は見いばを七ち出れる ではながれておれてないか 悔正象公之居東也與四同德盖指召公為同德也故 得悔亡有丧馬自復之象見惡人盖指多士多方之類 卦之象言也解在下緊盖取諸睽章〇葉良界曰周公 言始联而終合云初九當際之始而上无正應本當有 攝政遭流言之變故睽之六爻皆以身所履歷為辭盖 委曲之途也君臣相销當委曲相求期與之會遇也觀 諸鴟鴞之詩金膝之書可見巴六三互離有見象本爻 見之所以合睽故得无谷九二正公遇成王之象巷者 其胡載愛其尾足已其人天且劉盖指武庚及三監而 坤有與牛象曳之者二而掣之者四也即詩所謂狼跂

日休恒百我二人共與此强衛往何答之証也上九發 陽是以初冲居尊位也其有悔可知然以茶中之德而 之極也見不廣逢威思一山先孫之弘其疑而惡之也 下應九二有同宗象其合也直若噬庸之易以是而往 又何股之不能濟哉故曰往何谷成王既悟而迎公且 无谷六五正成王事程停亦以成王周公明之以陰居 少於是否公卒留不去是遇元夫交子之象故雖屬而 以盛滿求去是睽孤之象周公作書名曰君爽以固留 言詩不云乎周公東征四國是皇是无初而有終也九 四當際之時而居近君之位交解盖亦指召公云召公

古民内农中女人の 我仍是言,我的劳徒 蹇利西南超平易 其非冠也乃已之婚媾也除陽和而兩澤降亦猶上下 交而德業成故日往遇雨則古周公之心跡於是乎始 前有水之陷後有山之阻足不能進行之難也 白於天下矣故傳曰群疑亡也 甚失成王以旅言而疑公亦若是爾及其疑之釋也知 時必有蹇難蹇所以次縣也 傳喉者垂也垂必有難故受之以蹇蹇者難也睽垂之 傳西南坤方坤地也體順而易東北艮方艮山也體止 不利東北走魚利見大人貞吉

マスクラ ぎ寒をみな 大石の極は子の変ね 本的的出上在考中本 ゆると、作品を見るため 考 化吸物 子母而东沙世 人と人をおなてこと人の おあるませいちしいら 到健中正有大人之象自其以上五爻皆得正位則又 大人然後可以濟難文必守正然後得言而計之九五 蹇西南平易東北陰阻又艮方也方在蹇中不宜走除 而不進故其占田利西南而不利東北當蹇之時以見 义卦自小過而來陽進則往居五而得中退則入於艮 必以大正之道而堅固其守故貞則吉也〇本義蹇難 也足不能進行之難也為卦艮下坎上見除而止故為 有聖賢之人則能濟天下之難故利見大人也濟難者 也處順易則難可舒止於除則難益甚矣蹇難之時必 而除在蹇難之時利於順處平易之地不利止於危險 10 mm and 10 mm

至中了是 是我 录日寒難也除在前也見除而能止知矣哉 是多多人 五回及班五文分長此名於北 大佐兵山むけったを五 女世七七大社 然の場は なするかをかれる見れて<u>他</u> 聖多及節見之之主止而不能進則常在除中利見大人往有功也當位 第三篇 是是是利西南往得中五也不利東北其道窮三也三為民體 をかかずしふけるであた おらたまでいったよられ 乃在在外班し又名か日之 なられてとこれや 中の日西西方と大変 任意を確定し渡る国立 正押其用之人者也 貞吉以正邦也可以消寒寒之時用大矣哉往得中有功 本義以計德釋卦名義而精其美學在我也以前人 塞不可无其道故以蹇難而不失其正者為吉 貞之義也故其占又日利見大人貞言盖見險者貴於 能止而又不可終於止處除者利於進而不可失其正 也〇胡氏师文曰處蹇不可无其人故以見五為利處

· 考付号できょう。 教日山上有水寒湖谷文彩石破而止不能流行其象為 本義以計變卦體釋卦幹而賛其時用之大者也 第二年記書 一修徳取坎之心 第一次中華教育是 君子以及身修德過期阻必反求諸已及身取民之非 かるないかんといれるな おきないができなした。五 事がて P\$ → 11次 1月左左左五 世界年 いれいかんれびかれ る方なの人がけて出生 ラ帯子れ以本 い不正の以る 等方のなるなななかの 同日の時長は前後に五年 皆以往來為義 李氏曰古人生居亂世類皆高蹈隱淪以待天下之清 本義往遇險來得譽〇程氏可久日六非濟寒之才初 卒之身名俱高所謂來舉也視去復富貴而蹈危機以 非濟寒之位往則犯難來則獲見險能止之譽〇隆山

ひけいか 京上がは一次 とせい 学者を在生了上生一王臣塞塞匪躬之故 まないせまいすので 不なうされるいのべるか まるき エアる でんれる 全有 次子在天在 文學失人 である 大大の対策し花物 田ち生しかされて 必事を正存合で、客を吹 花花本中は ■中里作一名从不兴小 不養於學,大孩是 ではたるかれるしななおさ 一緒のようまの 本品大 象日王臣蹇蹇終无九也 濟之非以其身之故也不言吉凶者占者但當鞠躬盡 本義孫順中正正應在上而在船中故蹇而又蹇以来 蹇之世六二為王者之大臣九五優大君之正位君臣 力而已至於成敗利鈍則非所論也〇誠務初上三四 復不往以濟難能往平寒寒者多難而非一難也大臣 致名位俱小為後代所指笑者不有問哉 犯天下之多難而捐軀以求濟何尤之有 聖人皆不許其往惟六二九五无不許其往之辭者當

俊墨 古報之為 家田往寒来反内喜之也的一下之二的的诗事一回五部一百里的 おる大学人があおれれる日本 ではおれてするかのす たけいか生がしれつるし 何至不平与王三万的司馬 六四任寒来連びきまるからうなはかう The state of the s 九三往寒來反 本義連於九三合力以濟 學六二以匪躬為无尤有位无位之間耳 字 鄉歸故廬而得其所安下有二之陰喜之就之愈安矣 本義反就二之除得其所安〇胡氏炳文日反如逐数 二說皆以為二陰愚謂專指二爻為是故二下各添之 本義事雖不濟亦无可尤〇雷氏曰初六以不往為有

またであるのの教司住寒水連當位實也以除比於陽陽為寬故云傳以 せからた風をでしたった 今一不完此名中在 獨誠實之 商未然 クスガの人に 九五大寒朋來告生母后第二五八日本各五四年一日 **荀爽日處正承則故曰當位實也** 德必有朋來而助之者占者有是德則有是助也〇葉 良那云九五為蹇之主是人君之在蹇難中乃天下之 本義大蹇者非常之蹇也九五居尊而有劉健中正之 来順之臣翁然而至共濟大蹇之難矣〇毛伯玉云禍 大蹇也然以其居尊位而有剛健中正之德故足以致 天下之賢俊将見六二蹇蹇之臣必能朋合来反来連

ソカガモやからまれたえ 既我是不好不好!家日大寒朋來以中節也古動而不失中正之節故能使 大はてて、はかないたち ひかちいをありんててし おたメハヤ 之识明其之情度不好指 が存れたたれて、明年のは 弘富在至三天三 別米以成正 邦之功 大力ではいられては大学大 子言語及は紹布州の大阪 里林林布林布出茶七 るいの後ゃなくしいあきら の光はなかがれるる 元ははなりていますれた 製於朕身者人君當此之時須屈群策用群办乃可齊 大人住有功也然則五陷坎險之中所以為蹇也而其 亂天所以開聖人也九五德正而位尊立手除中以合 以撥亂反正乗危致安也數〇按大寒如所謂遺大投 位則君也治蹇者也以治蹇之主而居至除之中此所 之所謂當位貞吉以正邦也自朋來者言之所謂利見 天下使天下之有志者朋來而取節於我是故自我言 · 大小 れなるとしなが得れる

上六往塞來碩吉利見大人 來則有碩大之功而此久所以獨言吉也此說是文意 者何也以九五之大人方在蹇坎中上與三利見之而 今酌定其說於後上六巴在計極往无所之益以塞耳 今存さ 将出寒矣而亦曰往寒何哉盖上六之才雖柔而下有 同濟其蹇此其所以古也〇張清子曰上居坎體之上 本義說亦是祖以為來就九五則非益来就者九三也 惟来就九三與圖共濟則有碩大之功而古矣所以然 九三陽剛之才為之正應相與共濟九五之蹇不住而

The section of the se 家日往蹇來碩志在内也内指三利見大人以從貴也貴 指五 矣故文言其來反而象以內事釋之言二亦喜三之來 應不能從五唯反而就二則可與之同往而濟君之塞 然諸文中唯三有副實之才可以濟難以與五非近非 也在四而言來連者比三九故桑爾其當位實有比的 五應與君同患難者也故王臣蹇塞餘四父雖亦處蹇 坎中須眾爻以出除故大蹇朋來蹇其蹇者二也二與 以不任濟蹇之責是以喜來而惡往故久以往來為辭 丘氏行可曰蹇難也詳六爻之義則處蹇者五也五在

周易傳義補疑卷之五終 木奈位甲未能有為故以來事動之此塞大文七大首 待立之來者也三來則求受俱來而運可游失獨切六 也〇此卦六爻大指惟丘氏之說得之 唐來碩者應三也故象稱其忠在內盖事寒之世五直